

# 広島県

## 自然災害に関する防災教育の手引

### [別冊]

—平成30年7月豪雨災害を踏まえた実践事例・資料集—



平成31年3月

広島県教育委員会

表紙の写真について	
<p>(左上)</p> <p>平成 30 年 7 月豪雨災害での被災状況 (三原市)</p> <p>[県砂防課]</p>	<p>(右上)</p> <p>平成 30 年豪雨災害後にボランティア活動に参加する高校生 (三原市)</p> <p>[三原東高等学校]</p>
<p>(左下)</p> <p>昭和 42 年 7 月 9 日豪雨災害での被災状況 (宮原通 1 2 丁目)</p> <p>[県砂防課]</p>	<p>(右下)</p> <p>熊野町川角立体地図</p> <p>【平成 30 年 7 月 11 撮影 (空中写真)】</p> <p>[国土地理院ウェブサイト]</p>

## はじめに

西日本各地に大きな被害をもたらせた平成30年豪雨災害からまもなく一年を迎えます。平成30年7月3日から8日にかけて、わずか6日間で7月の過去の最大月間降水量を超える雨量を記録するなど、県内各地で観測史上初となる記録的な豪雨に襲われ、多くの人的被害や、家屋・インフラといった物的損害など、最大級の被害がもたらされました。

想定を超える豪雨による土砂災害や洪水による道路や鉄道の寸断、広範囲にわたる水道の断水など、児童生徒等は家庭や地域、学校において、これまでにない経験を重ねました。また、学校においては、教職員による児童生徒等の安否確認や心のケア、避難所における運営協力、学校再開へ向けての学校施設の安全確保など、日常の学校業務とは異なる対応が必要となりました。しかしながら、国や県外からの早急な御支援などによって、早期に学校を再開することができました。

このような状況の中、主体的にボランティア活動に取り組む児童生徒の姿が、地域の方に元気を与えたところです。このことは、これまで地域のために働くことのできる児童生徒の育成に取り組んだ防災教育の賜物であると考えております。

この度、こうした豪雨災害の経験から学び、自然災害の被害を最小限にとどめるとともに、児童生徒等が主体的に判断し、自分や家族の命、地域を守るために行動できる力を育成することをめざし、平成25年に作成した「広島県自然災害に関する防災教育の手引」の別冊として本手引を作成しました。

各学校においては、本手引を活用して防災教育をさらに充実させるとともに、学校の実態に応じた防災教育を教科横断的な視点をもって学校安全計画に位置付け、内容のつながりを整理しながら計画的に実施していただくことを期待しています。

終わりにになりましたが、本手引作成に当たり、御協力いただきました国土地理院中国地方測量部、広島地方气象台、広島大学大学院 准教授 熊原 康博先生、広島県土木建築局砂防課をはじめ、多くの関係者に感謝申し上げます。

平成31年3月

広島県教育委員会事務局  
教育部 豊かな心育成課

# 目次

## ～ 自分の命・家族の命・地域を守るために 主体的に行動できる児童生徒の育成をめざして ～

【平成 30 年 7 月豪雨災害について】	1
-----------------------	---

【豪雨災害を経験して】	2
-------------	---

- その時, 子供たちは
- 被災された方の声
- 復旧復興に向けて

### 【実践事例(指導案集)】

#### 1 自分の命を守るために行動できる

(1) 小学校 国語科 (NIE) 指導案	3
(2) 中学校 理科 指導案	6
(3) 特別支援学校 中学部 特別活動 指導案	10

#### 2 自分・家族の命を守るために行動できる

(1) 中学校保健体育科 指導案	11
------------------	----

#### 3 自分の命・地域を守るために行動できる

(1) 小学校 社会科 指導案 (わたしの避難手帳)	13
----------------------------	----

#### 4 地域を守るために行動できる

(1) 小学校 理科 指導案	18
(2) 中学校 道徳の時間 指導案	19
(3) 高等学校 地理歴史科地理B 指導案 (地理院地図の活用)	23

#### 5 教科横断的な実践及び総合的な学習の時間

(1) 小学校 総合的な学習の時間 (避難所生活) 指導案	25
(2) 中学校 保健体育科・道徳, 特別活動 指導案	28

### 【参考資料集】

6 避難訓練(地震・津波)実施計画事例	37
7 児童生徒作文	43

### 【関係資料】

8 坂町教育委員会 防災への取組実践発表資料	A
9 広島大学大学院教育学研究科 熊原 康博准教授 講義資料	B
10 広島地方气象台 (学校安全指導者講習会資料)	C
11 国土地理院中国地方測量部 (学校安全指導者講習会資料)	D
12 広島県土木建築局砂防課 (学校安全指導者講習会資料) 土砂災害関係 参考HP一覧	E

# 平成 30 年 7 月豪雨災害について

平成 30 年 6 月 29 日に発生した台風 7 号の影響による雨雲，また 7 月 5 日から 8 日にかけて梅雨前線が西日本付近に停滞しており，そこに大量の湿った空気が流れ込んだため，西日本から東海にかけて大雨が連日続きました。

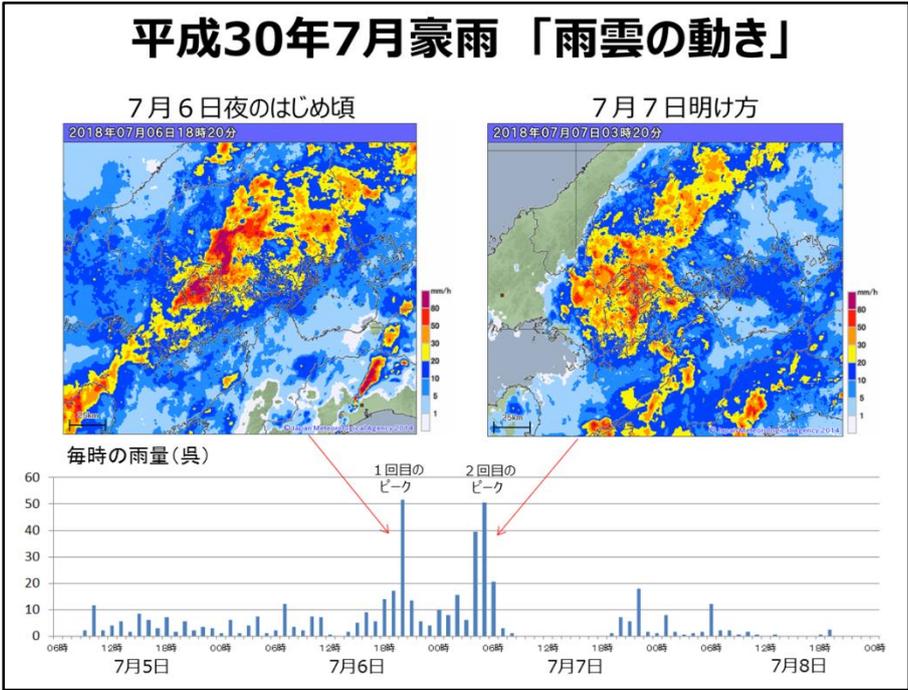


[坂町小屋浦 航空写真] (県砂防課提供) H30/7/7

7 月 6 日 17 時 10 分に九州北部の 3 県に大雨特別警報が発表され，続いて 19 時 40 分に広島，岡山，鳥取，さらには，京都，兵庫の 8 府県に大雨特別警報が発表されました。翌日

以降，岐阜，高知，愛媛の 3 県にも大雨特別警報が発表され，最終的に 11 府県で大雨特別警報が発表されました。

この豪雨により，県内はもとより西日本を中心に多くの地域で河川の氾濫や浸水害，土砂災害が発生し，甚大な災害となりました。また，上水道等のライフラインがストップしたほか，交通障害が広域的に発生し，日常生活が一変することになりました。



[平成 30 年度学校安全指導者講習会説明資料より] (広島地方气象台)

## 豪雨災害を経験して

### ■ 子供たちの声

- あっという間に水が玄関まで来た。道路は泥水で夜の避難はできなかった。早目の避難が大切だと知った。
- これまでとは違う雨の降り方だったので、近所のおじいさんたちに声をかけていっしょに避難した。日頃からの訓練が役に立った。
- 救助されるまで、水道や電気が止まって困った。非常食や水を蓄えておこうと思う。
- 茶色の水に流された。「たすけて！」と大きな声で叫んだ。おじさんたちに助けてもらい、安心した。とても暗くてこわかった。
- 雨は止まず不安だった。避難情報が出て、身の危険を感じ高い場所に避難した。恐怖を覚えた。
- 近所の土砂を片づけるため部活動の仲間とボランティアに参加した。少しでも役に立ったかなと思った。
- 勉強すること、部活動をすること、電車に乗って通学することなど、当たり前前なのが当たり前でなくなった。自分は大丈夫だと決めてはいけなと感じた。

### ■ 被災された方の声

- まさか自分が被害に遭うとは思わなかった。
- 地域のつながりを大切にしないと強く感じた。
- 避難所の運営など訓練しておく必要があると感じた。
- 土砂災害に備えて、避難情報に頼るだけでなく、早めに避難できるようにしたい。
- 家族に避難を促されなかったら、避難しなかったと思う。一緒に避難してくれる人がいると心強い。

### ■ 教職員の声（学校の復旧復興に向けて）

- 児童の安否確認に時間がかかった。
- 通学路の安全確認を行い、安全な道路へ通学路を変更した。
- 避難所となり、学校再開までに教育委員会や地域の方と連携し、避難所運営に協力した。
- 学校再開へ向け取り組む内容を列挙し、全教職員で確認して取り組んだ。
- 水没した学校施設の消毒をはじめ、衛生面の復旧に時間がかかった。
- 生徒の心のケアに十分配慮し、きめ細やかに健康観察を行い、専門家へつなぐ体制を整えた。